

第46回渋川摂食嚥下研究会レポート

日 時：平成29年2月7日（火）午後7時～
会 場：渋川市福祉庁舎4階 大会議室

今回の内容は『今さら聞けない摂食嚥下のキホンのキ』と題し、

講 師は群馬県健康福祉部保健予防課疾病対策・歯科保健係

群馬県歯科口腔保健支援センター 歯科医長 石田 圭吾 先生

にお願いいたしました。

【講演の内容】

- ・誤嚥性肺炎について
- ・口腔機能について
- ・食べる機能の支援について

上記の3つのポイントについて、写真や

表などを利用しわかりやすく説明していただく。

略歴 1981年生
神奈川県横浜市出身
昭和大学歯学部卒、同大大学院
歯学研究科修了歯学博士
かつては「大志」名義で音楽活動
もしていた！
平成27年4月より現職



誤嚥性肺炎について

- ・「誤嚥」は食物等の気管への流入。
- ・誤嚥＝誤嚥性肺炎ではない。
- ・口腔の清潔を保つことは予防に有効。
- ・清掃だけでは限界があるため、機能させることが重要。

誤嚥性肺炎予防は、
「清掃」と「機能」の両輪で初めて目的が達成される！

* 誤嚥が肺炎を発症させる要因

- ①誤嚥の量→ 重度の嚥下障害
- ②誤嚥物の深達性→ 咳の欠如
- ③誤嚥物の性質→ 酸性物（胃食道の逆流）
高浸透圧
- ④口腔、口頭の細菌→ 口腔咽頭の衛生不良
- ⑤患者の抵抗性→ 低栄養状態、臥床

* 口腔機能低下により、口腔内が乾燥し

分泌物の痂皮が見られるようになる。

↓
ここには歯周ポケットの²10倍嫌気生菌！

しゃべる・わらう・食べる

歯がなければ食べることができない！

食べられなければ、抵抗力・栄養価下がる！

食べる事にこだわる

多職種で支え合う事や定期検診が重要

食べる機能の支援について

- ・食べる機能の支援は、「かかわりの医学」
- ・単独では達成し得ない。連携が肝心。
- ・連携の構築には、「共通言語（知識）」、「共通のツール」が重要。
- ・「木を見て森を見ず」的な視点はNG！さらに森の季節も気にすることが重要。
- ・食形態、特にきざみ食には要注意。

口腔機能について

- ・「歯無し」じゃ「話」にならない。
- ・運動障害性の場合は、得られる効果は限定的。
- ・食形態が下がれば、栄養価も下がる。
- ・口腔機能低下予防のためにには、「ささいな」歯・口の機能の低下を軽視しない
- ・嚥下障害予防のためにには、運動をし、よく食べよく喋り、歯や口の健康を守ること。

* 入院中と在宅を繋げる、嚥下の

サポートチームが必要では！！



参加者からの感想

死因の第3位である誤嚥性肺炎の怖さや、口を使うことの大切さを実感しました。

また、研究会だけでなく病院から在宅への連携や多職種との連携を実践していくことが今後の課題だと分かりました。

在宅でできる口腔体操や、家族が食事介助する際に気を付ける事について、もう少し詳しく学びたいと思いました。

『「口腔体操」や、家族が食事介助する際に気を付ける事について学びたい。』という感想をいただきました。

次回の研究会は、嚥下体操と嚥下練習について、渋川中央病院の井田先生が教えてくださいます。

是非次回、ご参加ください。

今回の参加者状況

医師…11名

歯科医師…9名

薬剤師…4名

保健師・看護師…29名

歯科衛生士…4名

ST…13名 PT…2名 OT…1名

栄養士…13名

MSW・相談員…4名

ケアマネ…4名

介護員…42名

その他…2名

計 138名

★次回のご案内(予定)

「第47回 渋川摂食嚥下研究会」

日 時 : 平成29年 4月 4日(火) 午後7時~

会 場 : 渋川市福祉庁舎(渋川ほっとプラザ) 4階 大会議室

テー マ : 「やってみよう嚥下体操! 続けよう嚥下練習!」(仮)

講師 渋川中央病院
リハビリ科長 井田 慎子 先生
(言語聴覚士)

参加方法: FAXで所属・職種・氏名をご連絡のうえ当日会場へお越しください。

※参加費用は無料です。お気軽にご来場ください。

連絡先: 渋川地区在宅医療介護連携支援センター

高橋・小野

<TEL> 070-4424-9650

<FAX> 0279-20-1103

<E-mail> shibu-renkei@mail.gunma.med.or.jp